

カバークロップ跡環境こだわり水稻の安定生産

湖東農業農村振興事務所農産普及課

【普及活動のねらい・対象】

レンゲ・ヘアリーベッチなどのカバークロップの作付は、環境こだわり水稻栽培と組み合わせることで環境保全型農業直接支払制度における支援メニューの一つにもなっており、湖東管内では平成24年度に13戸約28haで取り組まれました。しかし、当管内においては、経験年数が最も長い農家でも5年程度と本技術の取り組み事例が少なく、農家の技術的な不安感が普及定着上の課題となっていました。そこで、本技術取組農家に対して下記の技術支援を実施しました。



レンゲで覆われたほ場

【普及活動の内容】

彦根市および多賀町内の3戸の取組農家に対し、カバークロップの生育状況に応じたすき込み方法や、生育調査を実施し生育状況に応じた水管理・施肥管理方法について重点的にアドバイスを行いました。

当管内におけるカバークロップ跡水稻の取組は、農家が独自の方法で実践している状況でしたが、それらの中には普及性の高い技術も含まれていることから、各農家が実践している技術や問題点を出し合う「技術情報交換会」を開催し相互研鑽の場を設けました。

【普及活動の成果】

重点的にアドバイスをした3戸の取組農家については、カバークロップのすき込みや、その後の入水など適切に作業され、跡作の水稻では3戸とも慣行栽培と遜色ない収量・品質となりました。

情報交換会では、たくさんの意見が出て活発なものとなり、

- ・レンゲは立毛中は種でも均一に繁茂させることができる
- ・動噴による播種は1キロ粒剤の感覚がちょうど良い
- ・畦塗りができないので、マルチで対応する
- ・土が柔らかくなりやすく、こまめに干さないで溝切りがしにくい

など、多くの貴重な情報を共有することができました。

今後、今年度の活動を通じて得られた知見をもとに、栽培暦やポイントとなる技術について、その作業時期ごとに農家自らが技術の実践を確認する「実践チェックシート」を作成・配布するなど、本取組に対する技術支援を継続していきます。



技術情報交換会の様子